

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 おりひめ)

事業所番号	0670102136		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	グループホーム北山形		
所在地	山形県山形市嶋北3-10-6		
自己評価作成日	令和 2年 9月 30日	開設年月日	平成 18年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方らしい生活を送れるよう、一人一人のペースに合わせた支援を行っています。日課としての役割を持ち、やりがいのある生活を送って頂けるよう、掃除や食器拭きなど作業と一緒に、感謝を伝えています。また、散歩や園芸を通じて季節を感じられるよう支援しています。食事が楽しみな皆様に月1回バイキングの日を設けたりお誕生日会にケーキを提供し、楽しめるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 10月 28日	評価結果決定日	令和 2年 11月 18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮町から嶋北に移転し約1年が経ち、快適な設備や間取りに利用者・職員が共に住み易く働き易い環境となっています。お茶の時間後の体操では笑い合いながら皆がはつらつと体を動かすなど理念に謳っている「いきいき のびのび ゆうゆうと」を実践しています。利用者が競って家事の手伝いをして、テーブルに「只今お手伝いしていただく仕事は無いです」とプレートを出さなければならぬほど役割を担い感謝されることが何よりの生きがいとなっています。新型コロナ感染拡大防止措置で今までやってきた様々な活動を制限せざるを得ない状況になっていますが、その中で全職員が工夫しながらできることを着実に、利用者は今まで通り笑顔で生き活きた生活を送っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所独自の理念を作り上げ、事務所内の目立つ所に掲示している。また、毎朝ミーティングの際に唱和し、職員の意識を高めようとしている。	事務室内掲示や朝礼時の唱和などで全職員が理解して共有し、利用者・家族・地域の方々が共に支え合う生活を目指している。職員は利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、日々笑顔で過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまではホームにボランティアを招いたり、地域の行事や近隣施設の催しに積極的に参加し、交流を図っていたが、今年度はコロナ禍の為自粛している。	約1年前に現在の場所に移転し、町内会活動や防災訓練への参加について協議していたが、新型コロナ禍で全ての活動が中止となっている。その中で町内会長・民生委員・福祉協力員に書面ではあるが運営推進会議に参加してもらい理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習の受け入れを通じて世代間の交流を図っている。地域の活動に積極的に関わることによって認知症の理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地域の方々やご家族、地域包括支援センター職員等と意見交換を行いながら、より良い施設運営に努めているが、今年度はコロナ禍の為開催を自粛し、文書にて報告を行っている。	地域包括支援センターや町内会役員、近隣薬局など多方面から意見をもらえるようメンバー構成をしている。感染防止対策で従来の会議の形を換え、入退居・活動・事故などの報告と機関紙「ほかほか」を送付し書面で生活の様子を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度の介護相談員の訪問時や運営推進会議にて報告・相談を行い、助言を得ていた。今年度はコロナ禍の為直接会う事は減ったが、文書にて報告を行い、電話にて相談・助言をうけている。	市や地域包括支援センター主催の会議や研修会も中止になり担当者と顔を合わせる機会も少なくなっているが、介護保険認定などの機会に現状を伝え、困り事ができたらいつでも相談に乗ってもらえる関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会にて毎月身体拘束を行っていないかチェックしている。また、定期的にアンケートを実施し利用者へのケアが拘束や虐待に当たらないか確認している。また、事業所内で身体拘束に関する勉強会を実施している。	「高齢者虐待防止マニュアル」を策定し周知徹底して、目的とする“快適なケアの実現”を図り抑圧のない生活に繋げている。また全利用者に眠りスキャンと必要に応じてセンサーを設置して、睡眠状況の把握や夜間の転倒など危険回避に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置し、年2回職員にアンケートを実施、虐待の防止、または早期発見に努めている。また年2回内部研修を行い、知識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を深めるため、毎年内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に口頭及び書面で十分な説明を行っている。不安や疑問点が無いか確認したうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケースカンファレンスや家族へのアンケートを実施し、家族に意見を求め、家族会で話し合いを行い運営に反映させている。また面会時に気軽に相談できる雰囲気作りを心掛けている。苦情窓口も設置している。	日々の会話の中で利用者に食べたい物ややりたい事などの希望や意見を聞き生活に反映させている。家族アンケートで得た意見や対応の結果などは全家族に配布し、また毎月広報誌と共に生活の様子を撮った写真を送り家族の安心に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会や職員会議で意見交換を行い、ブロック長を通じて運営に関する職員の意見を挙げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を積極的に奨励しており、知識や技術の向上を行うことでやりがいを持って働ける環境作りをしている。また、やる気があれば試験を通じて正職員になれる体制も整っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、研修内容を各職員に伝達研修を行うことで、職員全員のスキルアップに努めている。また勉強会を毎月開催し、学びの場を設けている。	今年度は新型コロナ禍の影響で外部研修がなくなり、法人内研修や毎月の事業所内研修を充実させ学ぶ機会を確保している。定期的に職員のストレスチェックを実施し、全職員が意欲を持ち働き易い職場となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	昨年度まではグループホーム連絡協議会の研修や交換研修への参加を通じ情報交換を行っていた。また、運営推進会議の実施、地域包括支援センター主催の会議に参加しネットワーク作りを行っていたが今年度はコロナ禍の為実施出来ずにいる。	グループホーム連絡協議会の開催も中止となり、例年行っていた交換研修や情報交換ができない状況になっている。法人内の委員会や会議を通して情報を得て、交流の再開を待っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを十分に行い本人の意向、課題の把握に努めている。入居前の習慣を出来る限り取り入れ、不安なく過ごして頂けるよう継続して支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、情報収集し家族の思いや要望を聞き入れ家族との関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の希望や意向を可能な限り受け入れ、その人の身体・精神状態に応じたケアプランを作成している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やその他の作業、日常生活を共同し、常に寄り添って共感しながら信頼関係を築くよう心掛け、感謝の気持ちを常に伝えている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会など機会があるごとにご本人の状況を伝えたり、行事の時など少しでもご家族と一緒に過ごせるよう関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	なじみの関係を大切にし、ご家族の協力も得ながら支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、余暇活動や体操を行っており、集団生活での関わり合いは充実している。能力に応じて利用者同士が支えあえる様声掛けを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて各関係機関への情報提供やご家族の相談に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人だけの時間も確保しており、傾聴する時間を設けている。無理にお話を迫るということはない。利用者個人の行動・意向を毎日尊重している。	利用者や家族から「仕事をさせてほしい」との意向が多く、少しずつ試してできる事できない事を把握し活動してもらっている。他利用者の行動を見て触発され意欲を持ち、生き生きと家事などに励む姿も見られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類を検討するだけでなく、本人と交流しながら信頼関係を築きこれまでの情報を把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとり一人の生活習慣や過ごし方を大切にしながら、その方が出来ることを生かせるように定期的にカンファレンスを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行うことで、現プランが本人に適切か把握出来ている。サービス担当者会議で確認した本人の意向やご家族の意向をカンファレンスで全スタッフに伝達するとともに、本人の生活が良くなるように意見を出し合っている。	利用者と家族等の意向を最優先に、段階を踏んで身近な課題解決を重ね目標達成できるようプラン作成や変更をしている。散歩や体操の課題を他利用者や職員と共に行うなど楽しみながら生活動作の低下防止を図り達成感を味わっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子、健康状態を個別の経過記録に記入している。ケアにあたる一人一人がケアプランを把握し実践に努めている。申し送りノートや日々の申し送りで利用者の情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域での活動に参加したり、ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方々と交流を図っている。また、行事に参加して頂くことで交流を図っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及びご家族の希望を伺いながら状況に合わせて受診を行っている。また、かかりつけ医とは常に情報を共有し合い、医療の方向性を決めている。</p>	<p>利用者のほとんどが定期的に協力医の往診を受けている。体調不良時にもすぐ対応でき安心な受診体制となっている。結果等は申し送りや看護記録にも記入し、職員は共有し特に変化があれば家族等にも連絡している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な看護師の訪問と、看護記録の活用を行い、助言を頂いている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医や病院関係者と密に連絡を取り、情報を提供し、ご家族と相談の上今後の方針を決めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際、重要事項説明書の説明時に重度化した場合の対応をご家族に説明し、同意を得ている。また、職員も勉強会を行っている。</p>	<p>医療行為が出来ない事から利用契約時に事業所で出来る事を説明し、利用者・家族等の理解を得ている。重度化してきた時は、家族等・かかりつけ医・看護師等と話し合い、意向を確認して次の段階へと進めている。職員は看取りについて外部講師による研修を受け、学びを深めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを準備し勉強会を行い、職員全員に周知し適切な対応が出来るようにしている。また、AED講習も行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けながら定期的に避難訓練を行い、地域・近隣施設との協力体制作りを行っている。防災委員会を中心に災害マニュアルを準備し、備蓄管理も行っている。	訓練の内容を日中や夜間、火災と地震などに想定を変え訓練を定期的に行い、災害に対応出来るよう行動している。反省点も自分達で見つけ次の訓練に活かしている。移転して来たばかりという事もあり、近くの同法人施設からの協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室での生活によりプライバシーを確保している。職員全員で接遇の勉強会を行い、利用者ひとり一人に合った対応をしている。	利用者一人ひとりの個性を尊重し、日課としての役割を持ってもらい、職員も関わりを深くして、感謝の言葉を掛ける様にしている。内部研修で接遇を学び、利用者のプライドを傷つけないよう話題にも気を付けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して本人の思いや希望を把握し、日常生活の中でも本人の意思を尊重している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、ひとり一人のペースに合わせ、希望があれば出来る限り希望に沿った支援を心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に好きな洋服を選んでもらったり、訪問カットや行きつけのお店を利用するなど、その人らしい身だしなみが行えるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や後片づけを行っている。また栄養委員会を中心に季節に合わせた行事食や郷土料理を提供するなど利用者の意見を参考にしながら支援している。	食事は副食のみ配食を受け、ご飯とみそ汁は事業所で作り職員も一緒に食べている。行事食やおやつ作りに利用者も加わり、おみ漬や干し柿なども作っている。月一回のバイキングが好評で、すしやラーメンなどの出前も楽しみなメニューとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の咀嚼・嚥下状態を確認しながら状態に合わせた食事形態の提供に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努め、口腔内の確認を行っている。必要に応じて歯科医による往診を受けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人毎の排泄パターンを把握した上でトイレでの排泄を促している。排泄の失敗を減らせるよう職員間で話し合い、統一した対応を行っている。	排泄パターン表を活用して、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。羞恥心に配慮し同性介助を心掛けている。また、排泄回数が多い時は医師に相談するなど細かく気配りしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の実施と水分摂取量の確保に努めている。排便状況を把握した上で必要に応じて主治医に相談しながら便秘の予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望を伺いながら、体調に合わせて入浴している。本人が出来る部分を促しながら気持ちよく楽しめるよう声掛けを行い支援している。	浴室は一般浴槽とリフトが設置されており、週2回を目途に入浴している。入浴時はそっと身体観察をして、あざや皮膚のただれなどないかを確認、浴槽をまたぐ時に必ず付き添い、出来るところは自分で、出来ないところは手伝い、またリフト浴利用の時には2人介助を行い安全な支援を心掛けている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を見ながら休息する時間を適度に取り入れている。昼夜逆転を防ぎ、夜間良眠出来るよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を見ながら分薬し、変更された薬については申し送りを行い理解に努めている。与薬は職員2名でダブルチェックにて確認し、誤薬のないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の出来ることに応じて家事作業や余暇活動を行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に周辺を散歩したり、行事にて外出を企画し外食やドライブに出かけ気分転換を図っている。	玄関前のプランターに植えている花やトマト・なすなどへの水やりを楽しみに、毎日外気浴をしている。時には桜のきれいな公園や田んぼの稲穂を眺めに散歩している。行事としてドライブを計画して出かける機会を作っている。個別に床屋に行く、買い物に行く等の要望に沿った支援をしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人個人での管理は難しい為、ご家族の了解を得て施設で管理。必要なものは本人やご家族と相談し購入している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞いや年賀状などを作成しご家族に郵送しているが、ご本人が作成困難な場合は職員が代筆し支援を行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃を心掛け、居心地よく過ごせるように支援を行っている。また、温度や湿度を測定し、温度調整を行い、また空気洗浄機を設置し感染予防に努めている。季節を感じて頂けるような展示物を飾り、交換もしている。	一日のほとんどを過ごすホールには、利用者と職員で作った日めくりが下げられ、係の人が毎日めくり、また、創作物で季節が感じられるよう設えている。食席が居場所となり、職員は常に利用者との人間関係に気配りし見守っている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人の身体機能や認知機能を把握し、安全な環境作りに努めている。気の合った利用者同士で過ごして頂いたり、一人で過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていたなじみの物や作品、ご家族の写真を飾るなど工夫している。</p>	<p>居室の入り口に利用者の顔写真を貼って名札変わりにして、車椅子利用の方には災害時を考え車椅子マークを貼っている。洗面台・ダンス・ロッカー・ベッドが備えてある。眠りスキャンを全員に配置して起き上がり等がわかり、必要な方には動作によって音が出るようにしており、見守りで安心な暮らしを提供している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ひとり一人の身体機能や認知機能を把握し、物の配置を工夫し決めている。</p>	/	/